

## 2 世帯主の年齢階級別家計資産

### (1) 概況

全世帯の1世帯当たり家計資産額を世帯主の年齢階級別にみると、年齢階級が高い世帯ほど家計資産額が多く、資産合計は30歳未満が817万円、30歳台が1459万円、40歳台が2712万円、50歳台が4160万円、60歳台が5556万円、70歳以上が5961万円となっており、70歳以上の世帯は30歳未満の世帯の7.3倍となっている。

資産の種類別にみると、金融資産は、30歳未満、30歳台がそれぞれ8万円、212万円の負債超過になっている一方、40歳以上の各年齢階級では貯蓄超過となっており、40歳台が148万円、50歳台が1020万円、60歳台が1884万円、70歳以上が2026万円と、50歳以上の各年齢階級では1000万円以上の貯蓄超過となっている。宅地資産は、30歳未満が426万円、30歳台が955万円、40歳台が1708万円、50歳台が2325万円、60歳台が2877万円、70歳以上が3261万円と年齢階級が高くなるに従って額も多くなっている。住宅資産は、30歳未満が253万円、30歳台が559万円、40歳台が685万円と40歳台までは年齢階級が高くなるに従って額も多くなっているが、40歳台をピークとして減少傾向になり、50歳台が630万円、60歳台が622万円、70歳以上が556万円となっている。耐久消費財等資産は、30歳未満が146万円、30歳台が158万円、40歳台が171万円、50歳台が186万円と多くなっているが、50歳台をピークとして60歳台が173万円、70歳以上が117万円となっている。

また、住宅・宅地資産について現住居・現住居以外別にみると、現住居の資産、現住居以外の資産とも年齢階級が高くなるに従って資産額が多くなっている。

(表 - 3 , 図 - 4 , - 5 )

表 - 3 世帯主の年齢階級別1世帯当たり家計資産額(全世帯)

(万円)

世帯主の 年齢階級	資産合計	金融資産	住宅・ 宅地 資産	住宅		耐久 消費財 等資産	耐久 消費財		年間 収入	
				宅地	住宅		耐久 消費財	ゴルフ 会員権等		
資産額 (万円)	平均	3900	950	2786	2180	606	164	150	14	696
	30歳未満	817	-8	679	426	253	146	144	2	469
	30歳台	1459	-212	1514	955	559	158	156	2	597
	40歳台	2712	148	2393	1708	685	171	164	7	777
	50歳台	4160	1020	2955	2325	630	186	170	16	878
	60歳台	5556	1884	3499	2877	622	173	145	28	624
	70歳以上	5961	2026	3817	3261	556	117	99	18	542
対前回 増減率 (%)	平均	-11.1	6.1	-15.5	-18.6	-2.3	-15.3	-10.5	-45.6	-8.5
	30歳未満	-21.2	-113.4	-16.6	-25.3	3.7	-9.8	-10.8	250.0	-2.2
	30歳台	-28.6	- <sup>1)</sup>	-21.3	-30.5	1.6	-12.1	-10.3	-67.9	-7.8
	40歳台	-20.7	-47.0	-18.7	-24.2	-0.7	-13.8	-9.7	-57.9	-7.6
	50歳台	-16.7	-2.9	-20.6	-23.7	-6.4	-17.2	-10.2	-55.1	-9.2
	60歳台	-12.6	-1.9	-17.4	-20.3	-0.2	-15.2	-4.6	-46.6	-7.4
	70歳以上	-14.2	-1.2	-19.9	-21.7	-7.4	-10.2	-5.3	-30.0	-2.0

1) 平成11年は-59万円。

図 - 4 世帯主の年齢階級別 1 世帯当たり家計資産額の前回との比較（全世帯）

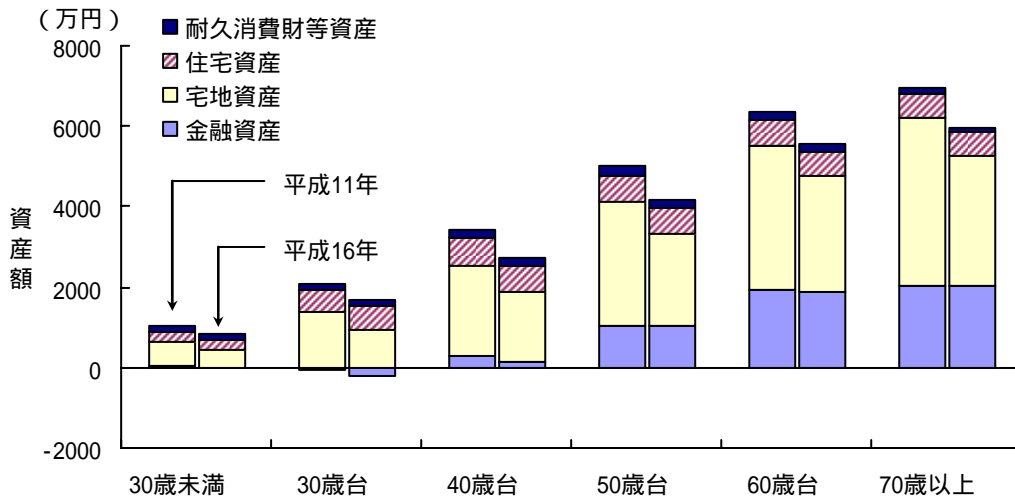
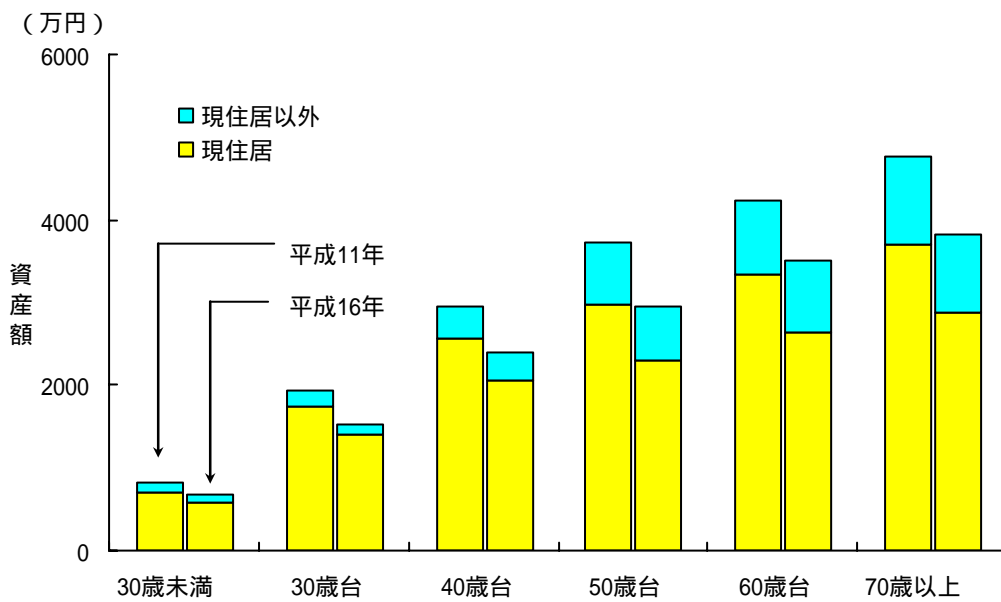


図 - 5 世帯主の年齢階級，現住居・現住居以外別 1 世帯当たり住宅・宅地資産額の前回との比較（全世帯）



(2) 前回との比較

世帯主の年齢階級別の家計資産額を平成11年と比べると、資産合計はすべての年齢階級で10%を超える大幅な減少となっている。

資産の種類別にみると、金融資産は住宅取得が進んだことによる負債現在高の増加で、30歳未満と40歳台で40%を超える大幅な減少となっているのに対し、50歳以上の各年齢階級では3%未満の減少となっている。宅地資産はすべての年齢階級で20%を超える大幅な減少となっている。住宅資産は、30歳台以下の年齢階級で住宅取得が進んだことにより増加しているのに対し、40歳以上の年齢階級では減少となっている。耐久消費財等資産はすべての年齢階級で減少となっている。

また、住宅・宅地資産について現住居・現住居以外別にみると、すべての年齢階級で現住居の資産、現住居以外の資産とも減少している。(表 - 3, 図 - 4, - 5)

(3) 資産の保有率の状況

世帯主の年齢階級別に現住居以外の住宅・宅地資産の保有率をみると、30歳未満が3.6%、30歳台が5.6%、40歳台が10.7%、50歳台が18.3%、60歳台が22.1%、70歳以上が23.5%となっており、年齢階級が高くなるに従って現住居以外の資産保有率も高くなり、60歳台及び70歳以上では20%を超えている。

現住居以外の住宅・宅地資産の種類別に世帯主の年齢階級別保有率をみると、70歳以上の「その他の資産」の保有率が60歳台を下回っているのを除くと、いずれも年齢階級が高くなるに従って保有率が高くなる傾向がみられる。

また、現住居以外の住宅・宅地資産の種類別保有率を比べると、40歳台以下の各年齢階級では親族居住用資産の保有率が最も高く、50歳以上の各年齢階級では「その他の資産」の保有率が最も高くなっている。なお、賃貸用資産の保有率は、すべての年齢階級で最も低くなっている。(表 - 4, 図 - 6)

表 - 4 世帯主の年齢階級別現住居以外の住宅・宅地資産保有率(全世界帯)

(%)

世帯主の 年齢階級	現住居以外・現居住地以外の資産のある世帯				現住居以外・ 現居住地以外 の資産のない 世帯
	親族居住用 資産	賃 貸 資 産	賃 貸 用 資 産	そ の 他 の 資 産	
平 均	15.9	6.3	5.0	6.9	84.1
30 歳 未 満	3.6	2.1	0.4	1.5	96.4
30 歳 台	5.6	3.0	1.0	2.1	94.4
40 歳 台	10.7	4.5	3.1	4.4	89.3
50 歳 台	18.3	7.0	5.5	8.4	81.7
60 歳 台	22.1	8.3	7.5	10.1	77.8
70 歳 以 上	23.5	9.0	8.7	9.8	76.5

図 - 6 世帯主の年齢階級別現住居以外の住宅・宅地資産保有率（全世帯）

